

【産業経済部 行動指針】

- ・地域産業の力強い回復・再生に向け、頑張る事業者を全力で支援します
- ・新たな観光戦略のもと「地域が稼ぐ持続可能な観光地づくり」を進めます
- ・農林水産事業者の稼ぐ力を高め、農山漁村の活性化を図ります

総合計画推進・SDGs推進

No.	組織目標	ページ
1	観光地の高付加価値化を推進します。	1
2	観光SDGsを推進します。	1
3	企業誘致による雇用機会の拡大、地域産業の振興を図ります。	1
4	求職者の就業及び就業者の育成を支援します	2
5	創業や事業承継支援を進め、商いを活性化します。	2
6	美食のまちづくりを進めます。	2
7	農地の利用集積・流動化、生産基盤の整備などを進め、生産現場の環境を整えます。	4
8	効果的な有害鳥獣対策の実施と捕獲個体の適正な処理を行います。	4
9	農林水産業が次代へ引き継がれるよう、担い手の確保・育成を図ります。	4
10	ブランド製品の生産拡大や農産物、水産物の品質向上・ブランド化を図り、出荷額を増加します。	4
11	域内流通の促進による地産地消と域外への販路拡大を推進します。	5
12	「農林水産業プラスワンプロジェクト」の展開など、複合経営の推進により農山漁村の定住促進を図ります。	5
13	市民・事業者が安全で安心して暮らし、働ける環境基盤を整備します。	5
14	農地利用の最適化を推進します。	5

コロナ対策

No.	組織目標	ページ
1	観光業のV字回復を図ります。	3
2	ウイズコロナ、アフターコロナに向けた事業転換を支援します。	3

総合計画推進

運営目標		実績(3月)
【商工観光課】		
1	観光地の高付加価値化を推進します。	
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 市内の観光関連施設事業者等と連携し、地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化を行うことにより、観光消費額の向上を図るとともに、観光従事者の賃金・待遇の改善等、労働環境の向上につなげる。 【達成すべき指標】 観光消費額: R1 109億円 → R4 114億円 【指標を達成するための取組・手段等】 ①市内の観光関連施設事業者と連携し策定する「地域観光拠点再生計画」に基づく、宿泊施設及び観光関連施設の磨き上げ。 ②市街地エリア、文珠エリア、府中・日置エリア、栗田・由良エリアを一体化するソフト事業の実施。 (例: 市内全域湯めぐり事業、各エリアを海で繋ぐ海上交通事業など)</p>	<p>【指標】 観光消費額: 令和4年度 84億円</p> <p>【実績】 ○観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」の採択に向けた取組 ・R4.4: 採択候補地域として選定 ・R4.6: 本採択に向け、地域計画の作成、参画希望事業者への説明会及び個別計画の作成に係る伴走支援を実施。 ・R4.7: 本採択 以後、各事業者の交付申請作業を側面支援</p> <p>① 宿泊施設: 17施設が施設改修を実施。総額: 1,005百万円 観光施設: 10施設が施設改修を実施。総額: 72百万円 ② 周遊・湯めぐりパスポート: 10/8~12/25 →1,085名参加(満足度 85.9%) 宮津天橋立ナイトウォーク: 10/14~11/13 →1,758名参加(満足度 82.6%) 海色タイムカプセル(DX): 10/8~1/31 →308名参加(満足度 56.6%) 天橋立サウナ×マルシェ: 11/19・20 →2,310名参加(満足度 97.3%)</p>
運営目標	<p>②</p> <p>【施策】 市内の各関係団体・各関連団体や海の京都DMO等と連携を強化するとともに、地域資源やICTの先端技術等の活用による魅力ある観光コンテンツの複数化により、滞在時間の延長を推進し観光客の満足度向上を図る。 【達成すべき指標】 体験プログラム参加者満足度割合(大変よい) : R3年度満足した割合18% → R4年度満足した割合25% 【指標を達成するための取組・手段等】 ①地域資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成・商品化に対する支援を実施する。 (R3年度 3プログラム → R4年度 10プログラム) ②体験コンテンツをより利用しやすい環境づくりとして、「JTB Bokun(体験アクティビティ予約システム)」の活用を推進する。 ③観光人材の育成のため、観光従事者のリカレント教育セミナー等を開催する。</p>	<p>【指標】 体験プログラム、ツアーの内容が良かった : R4年度アンケート割合26%</p> <p>【実績】 ①ア上宮津地区: Eバイクツアー(地域によるモニターツアー実施) →市はEバイクを貸与。地域で試乗会開催。 ①イ 府中地区: 開運股のぞき&龍めぐり(じゃらん連携事業) →智恩寺、籠神社、成相寺と連携した、天橋立周辺周遊プログラムを作成中。今年度は、天橋立ビューランド及び傘松公園から、3寺社に周遊させるストーリーと仕掛けを構築。 令和5年1月21日、販売を開始。3月末までで406個を販売。 ①ウ 由良地区: 体験プログラムの造成及びモニターツアーを実施(モニターツアーの実績) ・浜買いと食事ツアー: 7/8、7/28の2回 ・天然素材を使用した石鹸作り: 7/8、7/28の2回 ・由良歴史ガイド: 7/8、7/28の2回 ・オリーブ園体験: 8/22、9/6の2回 ・みかん農園作業体験: 8/22、9/6の2回 ・古民家座談カフェ: 8/22の1回 ②海の京都DMO及び天橋立観光協会において、「JTB Bokun(体験アクティビティ予約システム)」の導入調整。→導入には至らず。 ③京都府観光連盟など他団体が実施する観光セミナーへの参加を斡旋</p>
2	観光SDGsを推進します。	
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 「持続可能なマネジメントを支える体制・人づくり」「SDGsな観光地としてのブランド化」の2本の柱を基に、世界から選ばれるSDGsな観光地の実現を目指す。 【達成すべき指標】 ・現在及び将来の経済・社会・環境への影響を十分に考慮し、観光客のニーズに応えながら地域住民の暮らしを守る「持続可能な観光」の実現 【指標を達成するための取組・手段等】 ・国際認証団体によるSDGs観光認証基準に準ずる取組の推進。 →事業者に対する公認トレーニングプログラムの受講促進等による推進リーダーの養成。 →事業所から排出される固形廃棄物の減量化(食品ロス等)の促進 →多様な受入環境の整備促進(キャッシュレス環境整備の推進など)</p>	<p>【実績】 ○国際基準GSTC認証TOP100選への申請。 ・1次審査(評価報告書による審査)通過 →国際基準100項目のうち、主要15項目がクリアできているかを審査 ・2次審査(サステイナブル・ストーリーによる審査)落選</p> <p>○事業者に対する公認トレーニングプログラムの受講促進 →事業者向けの講座を実施。 座学に加え、市内宿泊施設を実施会場とし、施設内を実際に回りながら、取組が進んでいる点、遅れている点などを参加事業者とともに確認。</p>
3	企業誘致による雇用機会の拡大、地域産業の振興を図ります。	
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 企業誘致による雇用機会の拡大及び地域経済の活性化を図る。 【達成すべき指標】 企業立地件数: R3年度3件→R4年度2件 【指標を達成するための取組・手段等】 ①本市の特性を活かし環境や観光分野の企業等を中心とした誘致活動を実施する。 ②積極的な企業訪問による情報収集を実施し、ワンストップ窓口により関係機関との調整等、立地企業へのサポートを強化する。 ③企業誘致用地適地調査の結果等を活用し、適地情報の見える化を図るとともに、関係機関と連携した誘致活動を強化する。</p>	<p>【指標】 企業立地件数: 2件(丹後フーズ、オムロンフィールドエンジニアリング) クロスワークセンター: 3件(御所坊、テnder、リージョナルフィッシュ)</p> <p>【主な取組】 ①再エネ施設、観光関連施設の誘致活動 ②企業訪問等 83社 249回(R3 66社 247回) ③京都府の用地バンクへの掲載 ④企業立地拡充促進条例の一部改正</p>

運営目標		実績(3月)
4	求職者の就業及び就業者の育成を支援します	
運営目標	① <p>【施策】 商工会議所、ハローワーク、近隣市町等、関係機関・団体と連携し、求人企業と求職者のマッチングを推進するとともに雇用・労働環境の向上を図る。</p> <p>【達成すべき指標】 合同企業説明会内定者数：R元年度13人→R4年度20人</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 北部7市町連携事業及び京都労働局との雇用対策協定や京都府雇用施策等との連携による各種雇用確保策を実施する。 関係機関と連携し、働き方改革の普及啓発、就業者の育成支援を実施する。</p>	<p>【指標】 合同企業説明会内定者数：R4年度28人</p> <p>【主な取組】 ◆京都労働局との雇用対策協定に基づく就職フェア ・9/7(宮津開催):19企業・35人参加、内定者6人 ・9/13(京都開催):6企業・6人参加、内定者0人 ・2/17(宮津開催):22企業・40人参加、内定者5人 ◆北部7市町合同企業説明会 ・5/25(京都開催):80企業・46人参加、内定者5人 ◆丹後就職フェア(ハローワーク主催) ・8/3(宮津開催):46企業・49人参加、内定者12人</p>
5	創業や事業承継支援を進め、商いを活性化します。	
運営目標	① <p>【施策】 空き店舗の活用も含めた創業・第二創業等の経済活動を促進するとともに、商工会議所とも連携しながら市内事業所の経営支援や若手経営者・起業を志す人材を育成し、市内産業の活性化を図る。</p> <p>【達成すべき指標】 創業・第二創業件数：R2年度未実施→R4年度10件</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 ①新たな起業にチャレンジする人材を育成するため、未来天橋塾を開催する。 ②創業等支援補助金等の交付により、創業や事業承継等を支援する。 ③前尾記念クロスワークセンターMIYAZUを中心とした企業間連携の促進により、市内産業の活性化を図る。 ④副業人材等を活用し、企業活動を支援する。</p>	<p>【指標】 創業・第二創業件数：R4年度11件(飲食3件、宿泊2件、小売1件、サービス5件)</p> <p>【主な取組】 ○創業・第二創業等への取組支援(ビジネス振興補助金) 実績 13件 10,700千円(新型コロナウイルス対応事業再構築補助金 2件 1,000千円を含む) ○デジタル化対応、販路開拓等(事業者成長支援補助金) 実績 18件 1,720千円 ○未来天橋塾の開催 ・前尾記念クロスワークセンターMIYAZUにおいて5回のセミナーを開催 ・セミナーを踏まえ、10/7に三上家住宅において成果発表 ・9人の塾生が研修を修了した</p>
運営目標	② <p>【施策】 宿泊、飲食施設の経営や農林漁業体験の提供など農林水産業と並行して行う複合経営を推進し、市内への定着を図る。</p> <p>【達成すべき指標】 R4年度半農半Xインターンシップ参加者数：15人 体験農園開園に向けたサポートを実施：旧町村単位で各1か所以上</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】 観光施策と連携しながら農業体験プログラムを実施する「半農半Xインターンシップ」により、農業実習、地域との交流などを通じて担い手の確保・育成につなげる。体験農園の開園に向け、農業委員等と連携し、地域の気運醸成や農園の運営体制の構築などを支援する。</p>	<p>【指標】半農半Xインターンシップ参加者数：6人 ・9/18～24 畑地区(参加者2名) ・10/16～22 日ヶ谷地区(参加者3名) ・10/23～26 矢原・脇の浜地区(参加者1名)</p> <p>○地域の受入体制の構築 ・紹介パンフレット作成(日ヶ谷、畑、矢原)</p> <p>【指標】体験農園に係る取組状況 ・6/23に京都市の体験農園を運営する京都農業体験農園・園主会(事務局：京都府農業会議)の会員メンバーのほ場を農業委員等で視察 ・園主会も宮津に來訪いただき、アドバイスをいただき、今後の具現化に向けたノウハウを共有できる関係を構築 ・国分、宮村、小田宿野の関係者と調整中(今後、手法等について地域内で調整)</p>
6	美食のまちづくりを進めます。	
運営目標	① <p>【施策】 食の質向上と高付加価値化により、食を目的に訪れる美食のまちづくりを実現する</p> <p>【達成すべき指標】 食の満足度調査スコア R3:87→R4:95(※アンケート調査による)</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 ①大和学園との連携による新メニューの開発・情報発信(アドバイザー含む)メニュー開発数5品 ②農商ビジネス商談会による地元食材の活用 商談成立件数R2年度3件→R4年度10件 ③とり貝屋処・地産地消推進店等による地元食材活用店舗の魅力向上を図る。</p>	<p>【指標】食の満足度調査スコア 92.8</p> <p>【主な取組】 ○大和学園との連携による新メニューの開発・情報発信(アドバイザー含む)メニュー ・上世屋獣肉店ほかとの連携 2品 ・アドバイザー派遣による開発7品(3事業者) その他、学生レストランや(参加者74名)料理教室(参加者44名)等を実施 ○農商ビジネス商談会による地元食材の活用 商談成立件数R4年度3件(オンライン開催への変更) ○とり貝屋処、地産地消推進店のPR ・市HP等で周知を実施</p>

運営目標		実績(3月)
コロナ対策 【商工観光課】		
1	観光業のV字回復を図ります。	
運営目標	① 【施策】 国・府・DMO等が実施する需要喚起対策と連動した効果的なV字回復策を観光協会等と連携しながら実施し、観光による早期の経済回復を図る。 【達成すべき指標】 元年度入込客数との比較:R3年度 52.7% → R4年度 80.0% 【指標を達成するための取組・手段等】 観光協会、事業者と連携した、観光キャンペーンの実施するとともに、観光戦略に基づく高付加価値化の取組を実施する。	【指標】 令和元年度入込客数との比較:R4年度 72.3% 【主な取組】 観光協会、事業者と連携した、観光キャンペーンを実施。 ・宮津市教育旅行支援キャンペーン 6/1～12/31 予算額:2,500千円 実績額:1,425千円(14団体) ・宮津天橋立旅得キャンペーン 6/15～7/31 宿泊クーポン 予算額:10,000千円 実績額:9,939,000円(99.4%) 地域クーポン 予算額:2,500千円 実績額:2,097,500円(83.9%) ・宮津天橋立旅得キャンペーン(秋冬版) 10/11～12/25 宿泊クーポン 予算額:16,800千円 実績額:16,419,000円(97.7%) 地域クーポン 予算額:5,000千円 実績額:4,195,500円(83.9%) ・宮津天橋立「カニぶり」キャンペーン(秋冬版) 1/4～2/28 宿泊クーポン 予算額:8,000千円 実績額:4,820,000円(60.3%) 地域クーポン 予算額:2,500千円 実績額:1,423,500円(64.3%)
2	ウイズコロナ、アフターコロナに向けた事業転換を支援します。	
運営目標	① 【施策】 新型コロナウイルス感染状況、地域経済の状況に応じた的確な支援制度の構築、支援機関や補助制度等との連携により、市内事業所のウイズコロナ、アフターコロナへの対応を推進する。 【達成すべき指標】 倒産・廃業件数 ゼロ 【指標を達成するための取組・手段等】 ①事業再構築補助金(国・市)によるコロナに対応した事業転換を促進する。 ②国府等の支援制度の情報発信、経営相談等に対して金融機関、商工会議所等の適切な機関への取り次ぎ等を支援する。 ③国府、近隣市町や関係団体からの情報収集と分析を実施する。	【指標】 新型コロナウイルス感染症を主たる要因とした倒産・廃業 ゼロ 【主な取組】 ○経済対策会議の開催:R4.7.5 ○宮津市事業者等原油・物価高騰対策支援金(R4年度 8月補正) 農業者以外 353件 40,399千円 農業者 101件 4,246千円 (再)宮津市事業者成長支援補助金(R3年度 3月補正・R4年度へ繰越) デジタル化対応、販路開拓等 補助率1/2 補助上限15万円 実績 18件 1,720千円 (再)新型コロナウイルス対応事業再構築補助金(R3年度 3月補正・4R年度へ繰越) 店舗拡充等支援 補助率1/2 補助上限50万円(空き家活用150万円) 実績 2件 1,000千円

【農林水産課】		運営目標	   				実績(3月)
7		農地の利用集積・流動化、生産基盤の整備などを進め、生産現場の環境を整えます。					
運営目標	①	【施策】 集落における話し合いにより京力農場プラン※の策定を進め、持続可能な営農体制を確立する。 【達成すべき指標】 プラン策定集落数累計：R3年度末34集落(45%)→R4年度末62集落(83%) 【指標を実現するための取組・手段等】 集落において現状を把握し、5年後及び10年後ごとの耕作状況を地図で見える化し、話し合いにより今後、計画的に進める施策を共通認識する。 ※農業者等が話し合いに基づきアンケートの実施や年齢階層別の将来地図作成、中心経営体の将来方針策定など地域農業の将来の在り方を明確化した計画で、市町村が公表するもの。国の「人・農地プラン」の京都府独自の呼称				【指標】 京力農場プラン策定集落累計数 59/75集落(79%) [27プラン(新規25集落、9プラン)] ・農業委員会委員が地域の話し合いをリード ・懸案であった集落間連携、営農環境が極めて厳しい地域での策定に至る。 ○日置、吉津地区で農地の集積・集約化を促進(過去最大) ・日置地区…343筆、34ha、関係者153人 ・吉津地区…93筆、8ha、関係者49人	
運営目標	②	【施策】 農道、農業用水路などの農業生産基盤を整備する。 【達成すべき指標】 R4年度整備完了箇所数：R3年度3箇所→R4年度3箇所 【指標を実現するための取組・手段等】 施工箇所の優先順位付けを行い、円滑に地元調整を行いながら、早期に着工、完了する。				【指標】 ・施工完了箇所 小田小香河用排水路改修 1箇所 ・残2箇所については、予算を繰越し令和5年度に実施予定	
8		効果的な有害鳥獣対策の実施と捕獲個体の適正な処理を行います。					
運営目標	①	【施策】 ○有害鳥獣の防除・防護、処理などの対策を講じ、農作物等の被害を防止する。 ○有害鳥獣処理施設に係る適正かつ安定した稼働を行う。 【達成すべき指標】 ○有害鳥獣による被害金額：R3年度12,300千円 → R4年度4,200千円 ○有害鳥獣処理施設の中長期的な安定稼働 【指標を実現するための取組・手段等】 ○有害鳥獣を捕獲するとともに、防護柵の設置等に対し支援を行う。 ○特に被害が甚大であった地域を中心に、集落ぐるみでの防除対策へ向け講習会や話し合いを実施する。 ○ジビエ活用や個体数減少へ向けて技術習得に係る研修会を実施する。 ○有害鳥獣処理施設の適正な運営を行うとともに、中長期的な施設の安定稼働へ向けて地域と話し合いを行いながら取組を進める。				【指標】 有害鳥獣による被害金額：R4年度5,746千円 ・13地区に対して防護柵整備を支援 ・集落ぐるみでの防除対策として、吉津地区を獣害対策モデル地区とし、防護柵点検作業等を実施 【指標】 有害鳥獣処理施設の中長期的な安定稼働 ・投入量の適正化(100kg/回)、消臭ミストの散布、菌床の調整、循環水の定期交換、換気扇の稼働、ジビエ活用による処理量の低減(シカ100頭の活用)などにより臭気対策を実施(センサー値：R3ピーク8月525 →R4.10以降200以下(R5.1は33)へ改善) ・世屋地区において処理施設稼働状況等の説明会を実施(R5運用継続を承諾) ・ジビエハンター講習会を猟友会員を対象に実施(参加者17名) ・有害鳥獣処理施設の安定稼働のため、里波見地区に冷凍保管庫を整備(保管量の倍増)	
9		農林水産業が次代へ引き継がれるよう、担い手の確保・育成を図ります。					
運営目標	①	【施策】 就業時における生活支援や技術習得への支援を行い、新規就農者及び新規就漁者を確保する。 【達成すべき指標】 新規就農者及び新規就漁者：R3年度5名 → R4年度3名 【指標を実現するための取組・手段等】 経営開始資金の活用やサポートチームによる営農指導、集落における担い手受入環境の整備支援、半農半Xインターンシップ(再掲)、海の民学舎の共同運営により、担い手の確保・育成を図る。				【指標】 新規就農者及び新規就漁者 3名 ○農業 ・新規就農者2名(宮津、上宮津) ・現在12名(うち夫婦1組)について次世代人材投資資金・新規就農者育成総合対策 経営開始資金を交付し、経営確立を支援 ・新たな担い手受入体制構築支援：3地域において担い手受入体制構築の取組を実施(畑地区、日ヶ谷地区、矢原・脇の浜地区) ・半農半Xインターンシップ：畑地区、日ヶ谷地区、矢原・脇の浜地区で実施 ○漁業 ・新規就漁者1名(栗田) ・栗田漁業生産組合に1名就業済み(R4.4月末退職) ・海の民学舎1年目3名が座学受講中(うち1名は R4.5月に退舎) ・海の民学舎2年目7名が研修先で実技研修中(1名が栗田漁業生産組合小田事業所で研修中(R5.4から同事業所で就業予定))	
10		ブランド商品の生産拡大や農産物、水産物の品質向上・ブランド化を図り、出荷額を増加します。					
運営目標	①	【施策】 「やまのいも」、「オリーブ」及び育成水産物等の出荷額を増加する。 【達成すべき指標】 ①「やまのいも」出荷額：R3年度7,100千円 → R4年度7,500千円 ②「オリーブ」出荷額：R3年度2,400千円 → R4年度6,000千円 ③育成水産物等出荷額：R3年度25,000千円 → R4年度31,300千円 【指標を実現するための取組・手段等】 ①②生産拡大及び品質向上へ向けた研修の実施などの取組を支援する。 ③育成水産物の種苗数の調整及び関係者間の情報共有による生存率向上、ナマコの資源管理を行い、安定した生産を促進する。 ①②③大和学園と連携してブランド商品等を使ったレシピづくりや商品開発を行い、事業者や消費者へ食材としての活用を喚起し、美食のまちづくりに繋げる。 ②オリーブ生産者組織の法人化及び地域登録商標の取得を支援する。				【指標】 ①「やまのいも」出荷額：R4年度6,808千円 ②「オリーブ」出荷額：R4年度3,280千円 ③育成水産物等出荷額：R4年度63,451千円(16,972千円) ※③KPI構成要素のうち加工原料ナマコについて宮津市加工事業者 納入分からナマコ生産量全量へ変更(育成トリガイ+育成イワガキ+育成アサリ+加工原料ナマコ) R元 R2 R3 R4 変更前 2,400万円 2,469万円 2,360万円 1,697万円 変更後 3,856万円 4,778万円 5,363万円 6,345万円 ・オリーブの生産拡大及び品質向上へ向けた剪定等の研修を実施(静岡県) ・丹後とり貝の育成状況等の情報交換10回 ・種苗配付調整を3月に実施 ・資源管理によるナマコ漁は12/1～3/17(宮津湾) ・大和学園との連携により商品開発を実施(かぼちゃの和菓子、アカモク料理、ジビエ料理、しょうが佃煮、オリーブグミなど)	

【農林水産課】		運営目標	   				実績(3月)
11	域内流通の促進による地産地消と域外への販路拡大を推進します。						
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>地元農産物の販売力強化や市内観光関連施設等への供給など域内流通の促進による地産地消を行うとともに、ポストコロナを見据えた都市部等への販路拡大を図る。</p> <p>【達成すべき指標】</p> <p>まごころ市組合の売上：R3年度75,000千円 → R4年度80,000千円</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <p>○農産物集荷便の試行、ふるさと納税返礼品など野菜セットの販売、出張まごころ市などを開催する。</p> <p>○観光関連施設等における農産物の需要量、生産者による農産物供給可能性、流通事業者における農産物の流通実態などの調査を実施する。</p>				<p>【指標】まごころ市組合の売上：R4年度81,410千円</p> <p>○農産物等の販売促進に係る取組結果</p> <p>・農産物集荷便 10/17～10/29、12/5～12/17実施(R5.4.1から観光船による定例集荷を開始)</p> <p>・野菜セット販売 1月販売開始(実績1セット)</p> <p>・出張まごころ市 4回実施(浜町、文珠)</p> <p>・店舗魅力向上 パンフレット、動画作成</p> <p>○流通状況調査</p> <p>・需要施設：宿泊・飲食・福祉・給食15施設、生産者：農業者11名、流通事業者：卸売5社のヒアリング調査を実施。</p> <p>・単独流通事業は収益性が見いだせない。現在の生産量では需要量を満たせない。地元産だけを扱う流通事業者は需要施設に歓迎されないなどの結果。</p> <p>・今後は、既存流通(市内卸売事業者)を活用し、生産者の組織化を図ったうえで、供給可能な品目に絞って取り組んでいく。</p>	
12	「農林水産業プラスワンプロジェクト」の展開など、複合経営の推進により農山漁村の定住促進を図ります。						
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>宿泊、飲食施設の経営や農林漁業体験の提供など農林水産業と並行して行う複合経営を推進し、市内への定着を図る。</p> <p>【達成すべき指標】</p> <p>R4年度半農半Xインターンシップ参加者数：15人</p> <p>体験農園開園に向けたサポートを実施：旧町村単位で各1か所以上</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <p>観光施策と連携しながら農業体験プログラムを実施する「半農半Xインターンシップ」により、農業実習、地域との交流などを通じて担い手の確保・育成につなげる。</p> <p>体験農園の開園に向け、農業委員等と連携し、地域の気運醸成や農園の運営体制の構築などを支援する。</p>				<p>【指標】半農半Xインターンシップ参加者数：6人</p> <p>・9/18～24 畑地区(参加者2名)</p> <p>・10/16～22 日ヶ谷地区(参加者3名)</p> <p>・10/23～26 矢原・脇の浜地区(参加者1名)</p> <p>○地域の受入体制の構築</p> <p>・紹介パンフレット作成(日ヶ谷、畑、矢原・脇の浜)</p> <p>【指標】体験農園に係る取組状況</p> <p>・6/23に京都市の体験農園を運営する京都農業体験農園・園主会(事務局：京都府農業会議)の会員メンバーのほ場を農業委員等で視察</p> <p>・園主会も宮津に訪ねいただき、アドバイスをいただき、今後の具現化に向けたノウハウを共有できる関係を構築</p> <p>・国分、宮村、小田宿野の関係者と調整中(今後、手法等について地域内で調整)</p>	
13	市民・事業者が安全で安心して暮らし、働ける環境基盤を整備します。						
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>沿岸地域の安全安心を確保するための環境を整える。</p> <p>【達成すべき指標】</p> <p>海岸保全施設の令和4年度計画分を完了する。</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <p>海岸保全施設整備事業について地元調整を円滑に行うとともに、施工業者と綿密に調整することにより、工事の進捗を図る。</p>				<p>【指標】</p> <p>■令和4年度計画 L=50m</p> <p>・令和4年9月28日に工事請負契約を締結し、現在工事中</p> <p>・繰越の手続きを行い、工事完成予定を令和5年6月30日まで延長</p> <p>※繰越理由：離岸堤設置個所の海底地盤の調査等に不測の日数を要したことと合わせてストックヤードの使用に係る地元漁業団体との協議に日数を要した(大型網の天日干し・補修作業の時期と重複したため)</p>	
14	農地利用の最適化を推進します。						
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>①遊休農地の発生防止・解消</p> <p>②担い手への農地利用の集積・集約化の推進</p> <p>③新規就農の促進・農業関係人口の増加</p> <p>【達成すべき指標】</p> <p>①農業委員会による非農地判断の開始 →R4年度1,000筆以上の非農地処理</p> <p>体験農園の検討(再掲) →4年度※指標12-①</p> <p>②京力農場プランの策定・実質化を推進(再掲) →4年度※指標7-①</p> <p>農地中間管理機構との貸借を推進 →R4年度5集落</p> <p>③半農半Xインターンシップ参加者数(再掲) →R4年度※指標12-①</p> <p>若手農業者の集い開催 R3年度2回 →R4年度2回</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <p>①②農業委員会委員が集落で積極的に話し合い活動を展開できるよう支援する。</p> <p>非農地処理については、R3.3定例総会で運用方針策定済</p> <p>③多様な人材が農業に関われる受皿づくりを集落・関係機関と連携して進める。</p>				<p>【指標】</p> <p>①非農地判断⇒集落単位、上世屋855筆の非農地判断を実施</p> <p>体験農園⇒指標12-①のとおり</p> <p>②京力農場プラン⇒指標7-①のとおり</p> <p>農地中間管理事業⇒指標7-①のとおり</p> <p>③半農半Xインターンシップ⇒指標12-①</p> <p>若手農業者の集い2回開催</p> <p>・8/18第1回「有機農業の今後の可能性について」</p> <p>・3/20第2回「儲ける農業について」</p> <p>○日ヶ谷15日会の取組 通算16回開催</p> <p>・紹介パンフレット作成/日ヶ谷ぐらし応援隊結成(再掲)</p> <p>○全住民アンケート …田原、山中</p> <p>○全世帯意見交換会…山中</p> <p>○民間主体による営農型太陽光発電の事業化可能性調査の実施</p> <p>○農福連携の推進</p> <p>・よさのうみ福祉会の農地中間管理事業の活用(福祉法人による当該事業の活用は府内初)</p> <p>○DX化に向けた環境整備</p> <p>・全農業委員へのタブレット配付及びデジタル化による農地情報の共有など</p>	